

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年8月31日
【事業年度】	第43期（自平成26年6月1日至平成27年5月31日）
【会社名】	互助会保証株式会社
【英訳名】	MUTUAL SERVICE AID GUARANTEE CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 藤島 安之
【本店の所在の場所】	東京都港区虎ノ門5丁目13番1号（虎ノ門40MTビル）
【電話番号】	（03）3436-2801（代表）
【事務連絡者氏名】	総務部部长 柿木 繁男
【最寄りの連絡場所】	東京都港区虎ノ門5丁目13番1号（虎ノ門40MTビル）
【電話番号】	（03）3436-2801（代表）
【事務連絡者氏名】	総務部部长 柿木 繁男
【縦覧に供する場所】	該当なし

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第39期	第40期	第41期	第42期	第43期
決算年月		平成23年 5 月	平成24年 5 月	平成25年 5 月	平成26年 5 月	平成27年 5 月
営業収入	百万円	-	-	-	-	2,105
経常利益	〃	-	-	-	-	2,781
当期純利益	〃	-	-	-	-	2,857
包括利益	〃	-	-	-	-	3,924
純資産額	〃	-	-	-	-	35,239
総資産額	〃	-	-	-	-	88,732
1株当たり純資産額	円	-	-	-	-	304,582
1株当たり当期純利益	〃	-	-	-	-	28,520
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	〃	-	-	-	-	-
自己資本比率	%	-	-	-	-	39.7
自己資本利益率	〃	-	-	-	-	8.1
株価収益率	倍	-	-	-	-	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	百万円	-	-	-	-	3,265
投資活動によるキャッシュ・フロー	〃	-	-	-	-	17,813
財務活動によるキャッシュ・フロー	〃	-	-	-	-	196
現金及び現金同等物の期末残高	〃	-	-	-	-	7,244
従業員数	名	-	-	-	-	22
〔ほか、平均臨時雇用人員〕	〃	-	-	-	-	〔5〕

(注) 1. 第43期より連結財務諸表を作成しているため、それ以前については記載しておりません。

2. 営業収入は非課税につき、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

4. 株価収益率については、当社の株式は非上場であるため、記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第39期	第40期	第41期	第42期	第43期
決算年月		平成23年 5月	平成24年 5月	平成25年 5月	平成26年 5月	平成27年 5月
営業収入	百万円	2,118	2,046	2,027	2,002	2,105
経常利益	"	2,469	2,421	3,070	2,263	2,348
当期純利益	"	1,471	1,430	2,222	2,550	2,525
資本金	"	980	980	3,980	3,980	3,980
発行済株式総数						
普通株式	株	96,000	96,000	96,000	96,000	96,000
優先株式		-	-	60,000	60,000	60,000
純資産額	百万円	19,059	20,416	28,657	31,511	34,907
総資産額	"	62,187	66,498	76,772	82,655	88,299
1株当たり純資産額	円	198,535	212,675	236,010	265,747	301,116
1株当たり配当額						
普通株式		400	400	800	800	800
(内1株当たり中間配当額)	" (")	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
優先株式		-	-	2,000	2,000	2,000
(内1株当たり中間配当額)		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益	"	15,329	14,903	22,523	25,317	25,054
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	"	-	-	-	-	-
自己資本比率	%	30.6	30.7	37.3	38.1	39.5
自己資本利益率	"	8.0	7.2	9.0	8.4	7.2
株価収益率	倍	-	-	-	-	-
配当性向	%	2.6	2.6	3.5	3.1	3.1
営業活動によるキャッシュ・フロー	百万円	4,372	4,484	3,063	3,585	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	"	2,304	82	10,284	10,907	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	"	38	38	5,939	196	-
現金及び現金同等物の期末残高	"	4,445	8,973	7,692	21,989	-
従業員数	名	18	20	20	19	22
〔ほか、平均臨時雇用人員〕	"	-	-	-	-	〔5〕

(注) 1. 営業収入は非課税につき、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため、記載しておりません。

3. 株価収益率については、当社の株式は非上場であるため、記載しておりません。

2【沿革】

当社は昭和47年6月に「割賦販売法の一部を改正する法律」が成立し、互助会事業が同法の対象となるに伴い、互助会事業における加入者からの前受金保全措置としての供託委託契約の受託を事業目的として、昭和48年2月22日に設立されたものです。以来、互助会事業の発展により供託委託契約の受託額が大幅に増加すると共に、当社の業容も拡大し、本日も昭和57年12月に東京都千代田区岩本町3丁目4番5号から現在地へ移転、今日に至っております。

3【事業の内容】

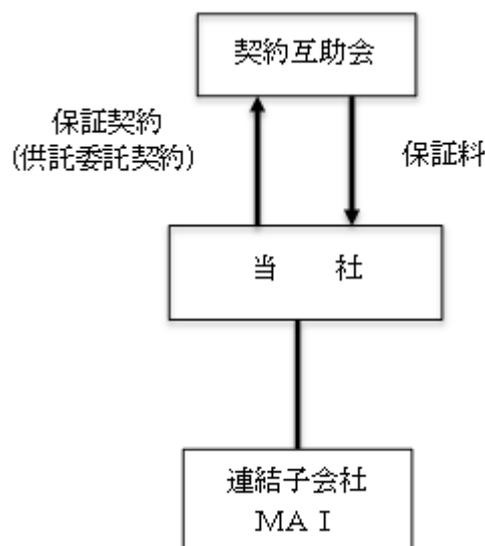
当社は、昭和48年3月15日から施行された改正割賦販売法に基づき同法第35条の4に定める指定受託機関として、「前受業務保証金供託委託契約」を締結することを業としています。

この「前受業務保証金供託委託契約」とは、割賦販売法第18条の3の規定に基づく前受金保全措置のための契約であって、当社の供託委託契約業務は前払式特定取引の方法により同法の指定役務を行う事業者で当社に出資した者又は受託事業基金を拠出した者を対象としています。

なお、事業の運営については経済産業大臣の承認を受けた業務方法書などに基づき実施されており、これによる当社の受託限度は当社の自己資本及び受託事業基金の合計額の25倍以内で、かつ、一供託委託者に対する受託限度は原則として当社の自己資本と、受託事業基金に50パーセント以下の率を乗じた額の合計額に相当する額となっております。

また、委託者が割賦販売法の定める一定の事由に該当することになった場合で経済産業大臣から指示があった時は、当社は委託者のために委託額に相当する額の前受業務保証金を供託することとなります。

連結子会社であるMutual Service Aid Guarantee Insurance Corporation (MAI)は、当社と国内損害保険会社との間で保険契約を締結していますが、その国内損害保険会社より再保険契約を引受しています。



4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は出資金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有割合 又は被所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) Mutual Service Aid Guarantee Insurance Corporation(MAI)	ミクロネシア 連邦共和国	1,031	再保険事業	100	キャプティブ 再保険会社 役員の兼務1名

- (注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報の名称を記載しております。
 2. 特定子会社に該当しております。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成27年5月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
保証事業	22(5)
再保険事業	0(0)
合計	22(5)

1. 従業員数は就業人員数であり、臨時雇用者数(人材会社からの派遣社員)は、当連結会計年度の平均人員を(外書)で記載しております。
 2. 再保険事業の人員は、保証事業の人員が兼務しております。

(2) 提出会社の状況

平成27年5月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
22 (5)	55.6	7.5	7,620

- (注) 1. 従業員数は、就業人員数であり、臨時雇用者数(人材会社からの派遣社員)は、年間平均人員を(外書)で記載しております。
 2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
 3. 当社は保証事業の単一セグメントであります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されていません。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1)業績

当連結会計年度の景況を概観しますと、日本経済は、昨年4月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動等の影響により、一時弱めの動きがみられましたが、その後は緩やかな回復基調が続きました。また、金融資本市場は、日本銀行による量的・質的金融緩和政策の拡大を背景に、低金利、円安の傾向が続きました。日経平均株価は、日本企業の業績が堅調に推移したことにより、当年度末には2万円台となりました。海外では、新興国の経済が全体として成長の勢いを欠く状態が続けた一方、米国の経済が内需主導での回復を続けたほか、欧州の経済も政府債務問題等の影響が見られたものの緩やかに持ち直すなど、先進国を中心に景気の回復が続きました。

このような状況の中で、冠婚葬祭互助会業界の業績は、概ね堅調な推移を示しました。

第85基準日(平成27年3月31日)におけるわが国全互助会279社の前受金残高は、前年度比1.1%増の2兆4,175億円と、273億円の増加となりました。

当社グループの契約先互助会162社の前受金残高は、前年度比1.6%増の2兆1,681億円と、343億円の増加となりました。

このような状況下、当社グループの当連結会計期間の業績は、次のとおりになりました。

当社グループの契約先は、互助会162社で、契約残高は、前年度比2.7%増の7,432億円と、199億円の増加となりました。

損益状況につきましては、営業収益は、2,105百万円となりました。

営業費用は、980百万円となりました。これは、キャプティブ(自社専用海外保険子会社)の保険料等の支払、また、当社の経営指導に役立つ(一社)全日本冠婚葬祭互助協会からのデータの提供を受けることに対する支払、広告協賛による支払等により物件費が増加したためであります。

以上の結果、営業利益は、1,124百万円となりました。

営業外収益は、前事業年度に将来の金利上昇リスクを回避する目的で満期までの残存期間3年半以上の債券を売却したことにより有価証券利息が356百万円となりましたが、REIT等の受取配当金753百万円及び複合金融商品償還益528百万円計上しました結果、1,656百万円となりました。

当連結会計期間は、営業外費用として計上するものはありませんでした。

以上の結果、経常利益は、2,781百万円となりました。

特別利益は、責任準備金戻入額420百万円と有価証券売却益1,163百万円を計上し、1,583百万円となりました。

特別損失は、キャプティブの責任準備金繰入額11百万円と株式の評価損1百万円を計上し、12百万円となりました。

以上の結果、税金等調整前当期純利益は、4,352百万円となり当期純利益は、2,857百万円となりました。

なお、当連結会計期間は連結財務諸表の作成初年度であるため、前年同期との比較分析は行っておりません(以下、「(2)キャッシュ・フローの状況」、「2 生産、受注及び販売の状況」及び「7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」においても同じ。)

(2)キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、7,244百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における営業活動によるキャッシュフローの増加は、3,265百万円となりました。これは受託事業基金の受入3,362百万円及び営業収入2,158百万円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における投資活動によるキャッシュフローの減少は、17,813百万円となりました。これは有価証券の償還による収入が78,300百万円ありましたが、有価証券及び投資有価証券の取得による支出が124,595百万円あったことによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における財務活動によるキャッシュフローの減少は、196百万円となりました。これは従来の普通株式の配当及び第一種優先株式の配当を行い、それぞれに特別配当を加えて行ったことによるものであります。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 販売方法

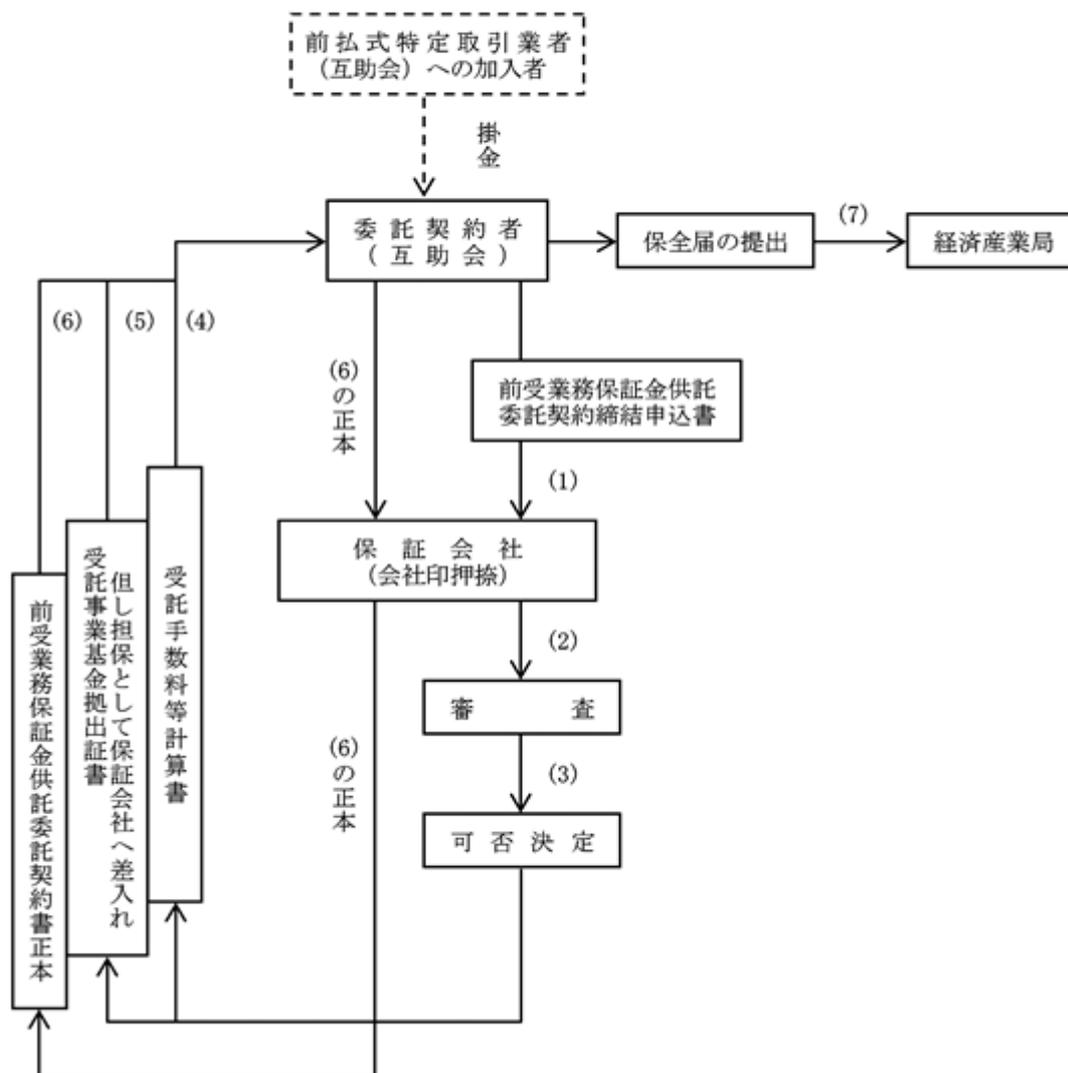
当社グループの前受業務保証金供託委託契約業務は本社において行い、供託委託契約者（互助会）より毎年3月末日及び9月末日を基準日とする契約について申込を受け、これを審査のうえ、経済産業大臣によって承認された受託限度額の範囲内で前受業務保証金供託委託契約を締結します。この間、受託手数料の領収と受託事業基金の預託を受けます。

当社は、前受業務保証金供託委託契約書の正本を委託者に交付し、委託者はこの写を前受業務保全措置届出書に添付して各基準日から50日以内に経済産業大臣に提出し保全措置を終わることとなります。

なお、この手続きの流れを示せば次のとおりであります。

前受業務保証金供託委託契約業務の流れ

(契約申込から契約書正本交付まで)



(2) 供託受託契約状況

供託受託契約状況は次のとおりであります。

期別	前連結会計年度 (自 平成25年 6月 1日 至 平成26年 5月31日)				当連結会計年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)			
	供託受託契約額		供託受託契約残高 平成26年 5月31日現在		供託受託契約額		供託受託契約残高 平成27年 5月31日現在	
区分	件数 (件)	金額(千円)	件数 (件)	金額(千円)	件数 (件)	金額(千円)	件数 (件)	金額(千円)
	-	-	-	-	325	1,481,549,652	162	743,299,672
計	-	-	-	-	325	1,481,549,652	162	743,299,672

(注) 供託受託契約の契約期間は6ヶ月であるため、供託受託契約額は2基準日の合計額であります。

(3) 供託受託契約実績及び収入手数料

供託受託契約実績及び収入手数料は次のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成25年 6月 1日 至 平成26年 5月31日)		当連結会計年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)	
	計	収入手数料 (千円)	計	収入手数料 (千円)
件数・金額(件)	-	-	327	2,131,546
供託受託契約額(千円)	-		1,481,549,652	
供託受託契約残高(A)(千円)	-		743,299,672	
供託受託契約限度額(B) (千円)	-		2,157,249,908	
供託受託契約限度額に対する 供託受託契約残高の比率 (A)/(B)(%)	-		34.4	

(注) 収入手数料は非課税につき消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

互助会業界を取り巻く経営環境は、少子・高齢化の進展による冠婚市場の伸び悩み、消費者のライフスタイル・ニーズの変化、異業種からの参入等により、冠婚・葬祭ともに競争が激化しており、今後一段と厳しさを増してくるものと思われま。

このような状況の中で、当社グループといたしましては、消費者保護という使命を果たすべく保証基盤の充実に従来にも増して注力するとともに、契約互助会の皆様の経営並びに業界システムの安定・強化に貢献できるよう引き続き努力し、もって指定受託機関としての役割を担っていく所存であります。

4【事業等のリスク】

当社グループの経営成績及び財務状況等に影響を及ぼす可能性があるリスクには、以下のようなものがあります。なお、以下は将来に関する事項であり、当連結会計年度末現在において判断したものです。

- (1) 互助会の破綻により、代位供託事故の増加、還付の発生するリスク。
- (2) 不動産の価格下落により、担保資産価値が低下するリスク。
- (3) 株式市況の低迷や市場金利の上昇、為替動向等により、保有株式や債券の評価損の発生や、含み損益の悪化のリスク。
- (4) 法的規制の強化や内容変更に伴うリスク。

5【経営上の重要な契約等】

特記すべき事項はありません。

6【研究開発活動】

特記すべき事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 当連結会計期間の財政状態の分析

資産

当連結会計期間末の資産合計につきましては、88,732百万円となりました。これは主に有価証券売却に伴う未収入金の計上及び本社用地取得に伴う土地の計上によるものであります。

負債

当連結会計期間末の負債合計につきましては、53,492百万円となりました。これは主に固定負債の受託事業基金の計上によるものであります。

純資産

当連結会計期間末の純資産合計につきましては、35,239百万円となりました。これは主に利益剰余金及びその他有価証券評価差額金の計上によるものであります。

(2) 当連結会計期間の経営成績の分析

「第2「事業の状況」1「業績等の概要」および2「生産、受注及び販売の状況」をご参照ください。なお、「第2「事業の状況」3「対処すべき課題」および4「事業等のリスク」をあわせてご参照ください。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

キャッシュ・フローの状況につきましては、1「業績等の概要」記載しております。

(4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当期末における現金及び現金同等物は、7,244百万円となりました。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当期中の設備投資及び設備の売却、撤去等についての特記事項はありません。

2【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成27年5月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物	什器備品	土地	建設仮勘定	合計	
本社 (東京都港区)	前受金の 保証事業	その他設備	570	9,762	1,914,208	907	1,925,449	22

(注) 建物(472.84㎡)は賃借中のものであり、これに対し保証金88,613千円が差入れてあります。

(2) 在外子会社

平成27年5月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)			従業員数 (名)
				建物及び 構築物	その他	合計	
(連結子会社) Mutual Service Aid Guarantee Insurance Corporation(MAI)	本社 (ミクロネシア)	再保険事業	-	-	-	-	(注)

(注) 再保険事業の従業員は保証事業の従業員が兼務しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

当社は、平成26年7月末に本社用地(377.30㎡)を港区西新橋1丁目18番14号に購入しました。

平成27年11月末に新築工事着工予定で、平成28年12月に竣工を計画しています。

新社屋完成後は、本社移転予定であります。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	384,000
第一種優先株式	60,000
計	444,000

【発行済株式】

種類	当事業年度末発行数(株) (平成27年5月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年8月31日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	96,000	96,000	該当なし	当社は単元株 制度は採用し ておりませ ん。(注1)
第一種優先株式	60,000	60,000	該当なし	当社は単元株 制度は採用し ておりませ ん。(注2)
計	156,000	156,000	-	-

(注1) 株式の譲渡制限に関する規定は次のとおりです。

当社の発行する全部の株式について、会社法第107条第1項第1号に定める内容(いわゆる譲渡制限)を定め
ており、当該株式の譲渡又は取得について取締役会の承認を要する旨を定款第8条において定めております。

(注2) 第一種優先株式の内容は次のとおりであります。

(1) 優先配当金

優先配当金

当社は、毎年5月31日の最終の株主名簿に記載又は記録された優先株式を有する株主(以下優先株主
という。)又は優先株式の登録株式質権者(以下優先登録株式質権者という。)に対し、普通株式を有
する株主(以下普通株主という。)又は普通株式質権者(以下普通登録株式質権者という。)に先立ち
、次に定める額の金銭による剰余金の配当(以下配当により支払われる金銭を優先配当金という。)を
行う。

第一種優先株式

1株につき年1,000円

ただし、平成26年度の株主配当については特別配当とし、1,000円を付加して年2,000円とする。

非累積条項

ある事業年度において、優先株主又は優先登録株式質権者に対し支払う金銭による剰余金の配当の額
が優先配当金の額に達しないときは、その不足額は翌事業年度以降に累積しない。

(2) 残余財産の分配

当社は、残余財産を分配するときは、優先株主又は優先登録株式質権者に対し、普通株主又は普通登録
株式質権者に先立ち、次に定める額の金銭を支払う。

第一種優先株式

1株につき100,000円

優先株主又は優先登録株式質権者に対しては、前項のほか、残余財産の分配は行わない。

(3) 取得条項

当社は、平成29年9月30日以降の当社の取締役会が取得日として定める日に、第一種優先株式1株につ
き100,000円で、第一種優先株式を取得することができる。

(4) 議決権条項

優先株主は、法令に別段の定めがある場合を除き、株主総会において議決権を有しない。

(5) 種類株主総会の決議

会社法第322条第2項に規定する定款の定めはありません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (千株)	発行済株式総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成24年10月1日 (注)	60	156	3,000,000	3,980,000	3,000,000	3,014,509

(注) 有償第三者割当によるものです。

発行価格 100千円

資本組入額 3,000,000千円

主な割当先 (株)ベルコ、(株)日本セレモニー、(株)三井住友銀行 他36社

(6) 【所有者別状況】

普通株式

平成27年5月31日現在

区分	株式の状況								単位未満株式の状況 (株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	合計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	12	-	135	-	-	6	153	-
所有株式数(株)	-	48,000	-	47,915	-	-	85	96,000	-
所有株式数の割合 (%)	-	50	-	49.9	-	-	0.1	100	-

優先株式

区分	株式の状況								単位未満株式の状況 (株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	合計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	1	-	38	-	-	-	39	-
所有株式数(株)	-	300	-	59,700	-	-	-	60,000	-
所有株式数の割合 (%)	-	0.5	-	99.5	-	-	-	100	-

(7)【大株主の状況】
所有株式数別

平成27年5月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
株式会社 ベルコ	池田市空港1-12-10	7,025 (4,500)	4.5
株式会社 セレマ	京都市中京区西ノ京中御門東町134番地	6,428 (4,500)	4.1
株式会社 日本セレモニー	下関市王喜本町6-4-50	5,530 (4,500)	3.5
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1-1-2	5,100 (300)	3.3
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1-5-5	4,800	3.1
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	4,800	3.1
株式会社りそな銀行	大阪府中央区備後町2-2-1	4,800	3.1
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1-4-1	4,800	3.1
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1-4-5	4,800	3.1
アルファクラブ武蔵野 株式会社	さいたま市見沼区上山口新田53番地1	4,754 (4,500)	3.0
株式会社 アークベル	新潟市中央区南笹口2-7-20	4,739 (2,500)	3.0
株式会社 サンレー	北九州市小倉北区上富野3-2-8	4,482 (2,500)	2.9
ユーアイ・ベルモニー 株式会社	広島市西区南観音3-16-19	4,320 (3,000)	2.8
株式会社 愛知冠婚葬祭互助会	名古屋市中区富士見町10-27	3,908 (1,000)	2.5
株式会社 京阪互助センター	大阪市北区鶴野町4番16号	3,772 (2,000)	2.4
株式会社 117	姫路市古二階町63番地	3,770 (2,500)	2.4
株式会社 暮らしの友	東京都大田区西蒲田8-3-1	3,650 (2,500)	2.3
株式会社 千代田	東京都荒川区西日暮里2-39-4	3,644 (2,000)	2.3
りそなカード株式会社	東京都江東区東陽2-2-20	3,200	2.1
東洋プロパティ株式会社	東京都港区虎ノ門1-1-28	3,200	2.1
ヒューリック株式会社	東京都中央区日本橋大伝馬町7-3	3,200	2.1
株式会社セディナ	名古屋市中区丸の内3-23-20	3,200	2.1
株式会社デベロツパー三信	東京都港区新橋2-20-1	3,200	2.1
三菱UFJトラスト保証株式会社	東京都品川区西五反田1-2-10	3,200	2.1
計	-	104,322 (36,300)	66.9

(注)所有株主数の()内書きは、優先株式であります。

所有議決権利数別

平成27年5月31日現在

氏名又は名称	住所	所有議決権数 (個)	総株主の議決権 に対する所有議 決権数の割合 (%)
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1-5-5	4,800	5.0
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1-1-2	4,800	5.0
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	4,800	5.0
株式会社りそな銀行	大阪府中央区備後町2-2-1	4,800	5.0
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1-4-1	4,800	5.0
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1-4-5	4,800	5.0
りそなカード株式会社	東京都江東区東陽2-2-20	3,200	3.3
東洋プロパティ株式会社	東京都港区虎ノ門1-1-28	3,200	3.3
ヒューリック株式会社	東京都中央区日本橋大伝馬町7-3	3,200	3.3
株式会社セディナ	名古屋市中区丸の内3-23-20	3,200	3.3
株式会社デベロツパー三信	東京都港区新橋2-20-1	3,200	3.3
三菱UFJトラスト保証株式会社	東京都品川区西五反田1-2-10	3,200	3.3
株式会社 愛知冠婚葬祭互助会	名古屋市中区富士見町10-27	2,908	3.0
株式会社 ベルコ	池田市空港1-12-10	2,525	2.6
株式会社名古屋冠婚葬祭互助会	名古屋市中区辻本通1-21	2,248	2.3
株式会社 アークベル	新潟市中央区南笹口2-7-20	2,239	2.3
計	-	57,920	60.3

(8) 【議決権の状況】
 【発行済株式】

平成27年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	第一種優先株式 60,000	-	「1.株式等の状況」の「(1)株式の総数等」の「発行済株式」の注記に記載されております。
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 96,000	96,000	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	156,000	-	-
総株主の議決権	-	96,000	-

【自己株式等】

該当事項はありません。

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

3【配当政策】

当社は、株主への利益還元と消費者保護のための保証基盤の確立を重要な経営方針として、事業の運営にあたっております。

当社は、年1回期末に利益剰余金の配当を行うことを基本方針としております。利益剰余金の配当の決定機関は株主総会であります。

こうした経営方針を踏まえ、利益配分については、長期に安定した配当と、内部留保のバランスをとることを基本方針としております。当社は昨年を上回る過去最高益を更新することができました。そこで、当期の期末配当金は、過去最高益を確保できましたことを勘案しまして、普通株式は、特別配当とあわせて倍額の1株につき800円、第一種優先株式も、定款所定の配当額の倍額である1株当たり2,000円としました。又、配当積立金制度を創設し、倍額配当を今後2年間継続することとし、その相当額を配当積立金として393百万円、受託事業基金積立金として1,950百万円を積み立てることといたしました。

なお、当事業年度に係る利益剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日		配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成27年8月28日 定時株主総会決議及び 普通株主による種類 株主総会決議	普通株式	76,800	800
		(普通配当 38,400) (特別配当 38,400)	(普通配当 400) (特別配当 400)
	第一種優先株式	120,000	2,000
		(普通配当 60,000) (特別配当 60,000)	(普通配当 1,000) (特別配当 1,000)

4【株価の推移】

当社の株式は、非上場であるため該当事項はありません。

5【役員の状況】

男性18名 女性0名（役員のうち女性の比率0%）

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役会長	-	吉田 茂視 (しげみ)	昭和18年9月26日	昭和41年4月 株式会社新興出版社入社 昭和44年7月 株式会社メモリード設立、代表取締役（現在） 平成10年7月 社団法人全日本冠婚葬祭互助協会副会長 平成14年7月 同協会会長 平成16年8月 当社監査役 平成19年8月 当社取締役 平成23年8月 当社取締役会長（現在）	(注)3	-
代表取締役社長	-	藤島 安之	昭和22年3月25日	昭和44年7月 通商産業省入省 平成6年7月 同省中部通商産業局長 平成7年6月 同省中小企業庁計画部長 平成8年7月 同省大臣官房審議官 平成9年7月 日本銀行政策委員会経済企画庁代表委員 平成10年7月 パナマ共和国駐割特命全権大使 平成14年6月 日商岩井(株)常務執行役員 平成14年11月 (株)ワコム取締役（現在） 平成15年4月 日商岩井(株)取締役専務執行役員 平成16年4月 双日(株)取締役専務執行役員 平成17年9月 同社代表取締役専務執行役員 平成20年4月 同社副社長執行役員 平成22年4月 同社顧問 平成22年8月 当社代表取締役社長（現在） 平成24年6月 エピスマリン(株)取締役（現在） 平成25年8月 イービストレード(株)取締役（現在）	(注)3	普通株式 0
常務取締役	-	佐々木 正	昭和26年7月1日	平成10年7月 中小企業庁指導部取引流通課長補佐（企画班長） 平成13年7月 経済産業省産業技術環境局知的基盤課計量行政室長 平成15年7月 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構本部総務部長代理 平成20年7月 経済産業省大臣官房参事官 平成22年7月 同省関東経済産業局総務企画部長 平成23年11月 当社常務執行役員 平成24年8月 当社常務取締役（現在）	(注)3	普通株式 0
常務取締役	-	兼松 健	昭和33年1月19日	昭和56年4月 みずほ銀行（旧富士銀行）入行 平成17年1月 同行藤沢支店長 平成19年4月 同行コンサルティング業務部部长 平成20年4月 同行横浜駅前支店長 平成22年5月 当社参与 平成22年8月 当社常務取締役（現在）	(注)3	普通株式 0

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	-	神田 忠 (まこと)	昭和18年7月6日	昭和47年6月 下関市冠婚葬祭互助会代表取締役 昭和47年7月 山口県冠婚葬祭互助会代表取締役 昭和54年1月 株式会社日本セレモニー代表取締役 (現在) 昭和55年1月 株式会社合掌堂代表取締役(現在) 平成6年7月 社団法人全日本冠婚葬祭互助協会理事 平成10年7月 同協会役務保証機構運営委員会委員長 平成12年5月 株式会社防長互助センター代表取締役 役(現在) 平成12年11月 株式会社日本セレモニー(広島)代 表取締役(現在) 平成14年8月 社団法人全日本冠婚葬祭互助協会副 会長(現在) 平成15年8月 当社取締役(現在) 平成16年3月 ㈱サンファミリー代表取締役(現 在) 平成25年2月 ㈱日本セレモニー代表取締役会長 (現在)	(注)3	-
取締役	-	北野 洋	昭和32年3月25日	昭和54年4月 みずほ銀行(旧富士銀行)入行 平成13年5月 同行麻布支店長 平成15年5月 同行チャネル営業推進部長 平成16年5月 同行横浜中央支店長 平成19年4月 ヒューリック㈱不動産投資部ニュー ビジネス推進室長 平成22年1月 同社執行役員財務部長 平成22年8月 当社取締役(現在) 平成25年4月 ヒューリック㈱常務執行役員財務部 長(現在)	(注)3	-
取締役	-	小島 正嗣	昭和37年8月26日	平成19年4月 三井住友銀行日本橋法人営業部副部 長 平成23年4月 同行志木法人営業部長 平成25年4月 同行静岡法人営業部長 平成27年4月 同行日比谷法人営業第一部長(現 在) 平成27年8月 当社取締役(現在)	(注)3	-
取締役	-	柴山 文夫	昭和16年4月22日	昭和55年2月 株式会社ラック(大分)(旧株式会 社大分互助センター)代表取締役 昭和60年8月 株式会社ラック(旧株式会社西日本 互助センター)代表取締役(現在) 昭和62年5月 株式会社西日本博愛社代表取締役 (現在) 昭和62年8月 当社取締役(現在) 平成2年7月 社団法人全日本冠婚葬祭互助協会常 任理事 平成6年7月 同協会副会長 平成18年7月 同協会会長 平成22年7月 同協会理事(現在)	(注)3	-
取締役	-	杉山 雄吉郎	昭和17年1月4日	平成3年1月 ㈱あいネット静岡(現㈱あいネット) 代表取締役(現在) 平成10年7月 (社)全日本冠婚葬祭互助協会副会 長 平成14年6月 全国冠婚葬祭互助会連盟会長 平成16年8月 当社監査役 平成22年7月 (社)全日本冠婚葬祭互助協会会長 平成25年8月 当社取締役(現在) 平成26年8月 (一社)全日本冠婚葬祭互助協会会 理事(現在)	(注)3	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役	-	坪井 聖司	昭和39年12月25日	平成20年4月 みずほコーポレート銀行プロダクツ ディストリビューション部シンジ ケート推進役 平成24年4月 みずほ銀行コーポレートファイナ ンス部シンジケーション室長 平成25年4月 みずほコーポレート銀行投資銀行業 務管理部副部長 平成25年7月 みずほ銀行投資銀行業務部副部長 平成26年4月 みずほ銀行法人マーケティング部長 (現在) 平成27年8月 当社取締役(現在)	(注)3	-
取締役	-	浜田 勇一郎	昭和39年8月18日	昭和62年4月 りそな銀行(旧協和銀行)入行 平成20年7月 同行上野・日暮里エリア 営業第二部長(日暮里支店法人担当) 平成22年7月 同行審査部アドバイザー 平成23年1月 同行審査部クレジットオフィサー 平成23年5月 同行大阪営業部営業第二部長 平成25年10月 同行赤坂支店支店統括部長兼営業第 一部長 平成25年10月 同行赤坂支店支店長(現在) 平成26年8月 当社取締役(現在)	(注)3	-
取締役	-	廣田 雄作	昭和36年1月19日	昭和60年4月 三菱UFJ信託銀行(旧三菱信託銀 行)入社 平成21年10月 同行名古屋証券代行部長 平成24年7月 同行法人企画推進部副部長 平成26年4月 同行本店法人営業部長(現在) 平成26年8月 当社取締役(現在)	(注)3	-
取締役	-	山下 裕史	昭和39年12月5日	平成17年8月 ㈱117代表取締役(現在) ㈱大和生研代表取締役(現在) 平成18年7月 (社)全日本冠婚葬祭互助協会副会 長(現在) 平成24年6月 全国冠婚葬祭互助会連盟副会長(現 在) 平成25年8月 当社取締役(現在)	(注)3	-
取締役	-	渡邊 貢	昭和14年5月15日	昭和48年4月 株式会社メモワール常務取締役 昭和57年6月 株式会社ソシア21代表取締役 昭和63年1月 株式会社セレモジャパン代表取締役 昭和63年10月 横浜商工会議所一号議員(現在) 昭和63年12月 株式会社ソシア21ヨコハマ副社長 平成元年8月 当社取締役 平成4年7月 社団法人全日本冠婚葬祭互助協会常 任理事 平成6年5月 株式会社メモワール代表取締役 平成7年5月 横浜典礼株式会社(旧株式会社ソシ ア21ヨコハマ)取締役 平成10年7月 社団法人全日本冠婚葬祭互助協会副 会長(現在) 平成18年4月 ㈱駿河冠婚葬祭互助会代表取締役 平成19年8月 当社取締役会長 平成23年1月 株式会社メモワール取締役会長(現 在) 平成23年8月 当社取締役(現在)	(注)3	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役	-	岡本 眞	昭和28年6月12日	平成11年7月 商工組合中央金庫沼津支店長 平成13年7月 同金庫東京支店営業第一部長 平成15年3月 同金庫京都支店長 平成17年7月 同金庫審査第一部上席審査役 平成19年4月 当社業務第二部審議役 平成21年2月 当社総務部長、企画管理部長兼内部監査室長 平成25年4月 当社総務部長兼内部監査室長 平成25年8月 当社監査役(現在)	(注)4	-
監査役	-	佐久間 潔 (さくまきよし)	昭和36年2月26日	昭和59年4月 中央三井信託銀行(旧三井信託銀行)入社 平成12年4月 同行年金営業第二部営業第二室長 平成15年7月 同行小田原支店次長 平成17年2月 同行本店法人第二部次長 平成19年10月 同行本店法人営業部次長 平成22年1月 ㈱デベロツパー三信出向 取締役総務部長 平成23年8月 当社監査役(現在) 平成27年5月 ㈱デベロツパー三信 総務部長(現在)	(注)5	-
監査役	-	佐久間 庸和	昭和38年5月10日	平成13年10月 ㈱サンレー代表取締役(現在) 平成20年6月 全国冠婚葬祭互助会連盟副会長 平成25年8月 当社監査役(現在) 平成26年6月 全国冠婚葬祭互助会連盟会長(現在)	(注)4	-
監査役	-	安田 征史 (せいし)	昭和15年11月20日	昭和43年6月 株式会社セルモ代表取締役(現在) 平成6年12月 株式会社Y S トレーディング代表取締役(現在) 平成12年7月 株式会社シグナル交通代表取締役(現在) 平成13年11月 株式会社サンセルモ代表取締役(現在) 平成19年8月 当社監査役(現在)	(注)5	-
計						普通株式 0

- (注) 1. 取締役吉田茂視、神田忠、北野洋、小島正嗣、柴山文夫、杉山雄吉郎、坪井聖司、浜田勇一郎、廣田雄作、山下裕史及び渡邊貢は、社外取締役であります。
2. 監査役佐久間潔、佐久間庸和及び安田征史は、社外監査役であります。
3. 平成27年8月28日開催の定時株主総会の終結の時から平成29年5月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4. 平成25年8月28日開催の定時株主総会の終結の時から平成28年5月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
5. 平成24年8月29日開催の定時株主総会の終結の時から平成28年5月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

(1) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、互助会加入者の保護と業界の健全な発展を目的とする公共性の強い機関であり、事業の適正な運営を確保することが求められています。そのため、割賦販売法等法令遵守を徹底するとともに、社外取締役を積極的に迎え入れるなど、透明性が高く、牽制機能を備えた経営システムの構築を目指しています。

(2) 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

当社は、監査役会制度採用会社であります。

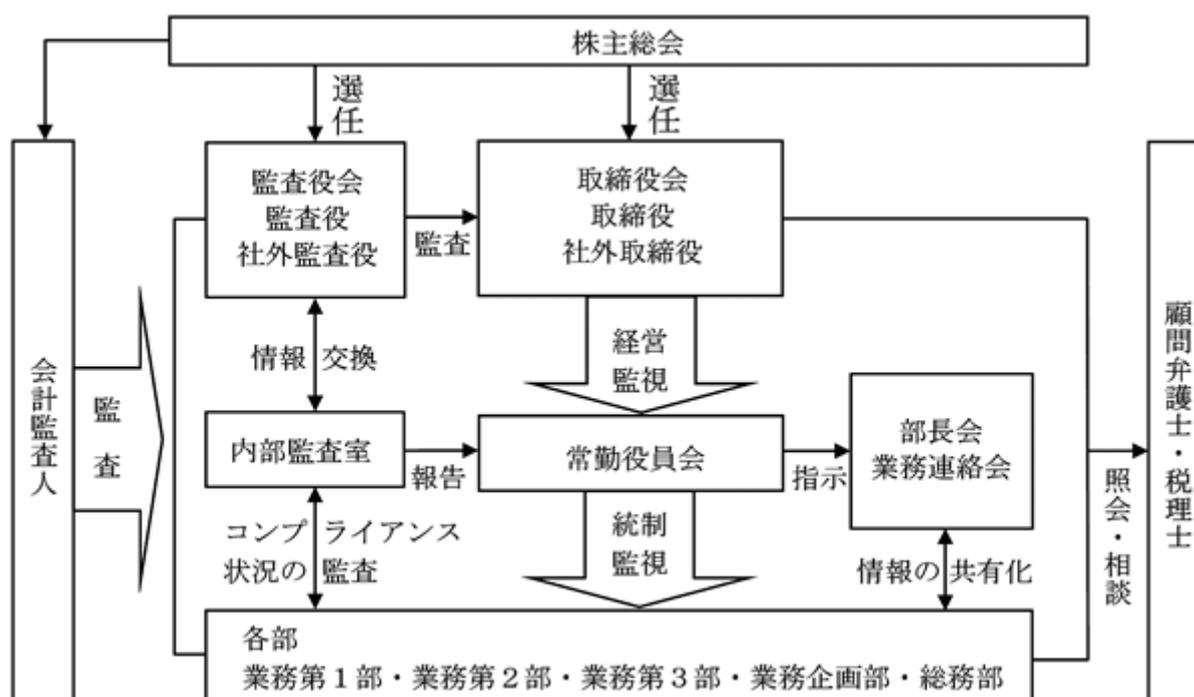
取締役会については、取締役14名(内社外取締役11名)で構成され、法令、定款及び取締役会規程等に基づき運営されております。当期については5回開催いたしました。

監査役会については、監査役4名(内社外監査役3名)で構成され、法令、定款及び監査役規程等に基づき運営されております。当期については6回開催いたしました。

会計監査人と監査役会は、年度を通じて連携して監査を実施するとともに、期中を通じて随時情報交換を密にしております。

また、内部監査室は、室長と室員2名で構成され、組織規程および内規等に基づき運営されております。

なお、当システムを図表で示せば次の通りであります。



(3) リスク管理体制の整備の状況

当社において想定されるリスクについては、各種規則・マニュアルを制定し、保証業務に関するものは業務・業務企画部担当者が対応、それ以外のは総務部担当者が対応し、役員が総合的な管理を行っております。

(4) 役員報酬の内容

取締役の年間報酬総額 59百万円

監査役の年間報酬総額 14百万円

(なお、社外取締役・社外監査役については無報酬であります。)

(5) 会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、山崎清孝、新島敏也であり、仰星監査法人に所属しております。当社の監査業務に係わる補助者は、公認会計士4名、会計士試験合格者2名であります。

(6) 当社と当社の社外取締役及び社外監査役との人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係
 社外取締役吉田茂視は㈱メモリード(長崎)、㈱メモリード(北関東)、㈱セレモニー宮崎の代表取締役であり、当社と左記3社との間には前受業務保証金供託委託契約を締結しております。
 これと同様な関係にあるものは以下の通りであります。
 社外取締役神田忠は㈱日本セレモニー、㈱防長互助センター、㈱日本セレモニー(広島)、㈱サンファミリーの代表取締役であります。社外取締役柴山文夫は㈱ラックの代表取締役であります。社外取締役山下裕史は㈱117の代表取締役であります。社外取締役杉山雄吉郎は㈱あいネット、㈱あいネット清水、㈱あいネット伊勢の代表取締役であります。連結子会社社外取締役北村芳明は㈱アークベルの代表取締役であります。社外監査役安田征史は㈱セルモ及び㈱サンセルモの代表取締役であり、社外監査役佐久間庸和は㈱サンレー(北九州)、㈱サンレー(北陸)及び㈱サンレー(沖縄)の代表取締役であります。

(7) 取締役の定数
 当社の取締役は、14名以内とする旨を定款で定めております。

(8) 取締役の選任の決議要件
 当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

(9) 株主総会の特別決議要件
 当社は、株主総会の特別決議の定足数をより確実に充足できるようにするため、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。

(10) 種類株式の発行
 普通株式の発行のほか第一種優先株式を発行しております。
 第一種優先株式について議決権を有しないこととしている理由は、資本増強にあたり既存株主への影響を考慮したためであります。
 第一種優先株式の内容については「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (1) 株式の総数等 発行済株式」の(注2)をご参照ください。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(円)	非監査業務に基づく報酬(円)	監査証明業務に基づく報酬(円)	非監査業務に基づく報酬(円)
提出会社	7,300,000	-	7,800,000	-
計	7,300,000	-	7,800,000	-

【その他重要な報酬の内容】
 該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】
 該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】
 当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針は、監査日数及び当社の規模・業務の特性等の要素を勘案して適切に決定しております。

第5【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。
また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。
- (3) 当連結会計年度(平成26年6月1日から平成27年5月31日まで)は、連結財務諸表の作成初年度であるため、以下に掲げる連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結キャッシュ・フロー計算書については、前連結会計年度との対比は行っておりません。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成26年6月1日から平成27年5月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成26年6月1日から平成27年5月31日まで)の財務諸表について、仰星監査法人による監査を受けております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

当連結会計年度 (平成27年5月31日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	4,832,139
有価証券	1 18,240,499
未収入金	4,960,499
未収収益	54,994
前払費用	87,662
繰延税金資産	35,409
その他	990
流動資産合計	28,212,195
固定資産	
有形固定資産	
建物	9,553
減価償却累計額	8,982
建物(純額)	570
什器備品	26,678
減価償却累計額	16,916
什器備品(純額)	9,762
土地	1,914,208
建設仮勘定	907
有形固定資産合計	1,925,449
無形固定資産	
ソフトウェア	63,859
電話加入権	456
無形固定資産合計	64,316
投資その他の資産	
投資有価証券	1 56,438,656
長期預金	1 2,000,000
長期差入保証金	90,182
長期前払費用	1,850
投資その他の資産合計	58,530,690
固定資産合計	60,520,455
資産合計	88,732,651

(単位：千円)

当連結会計年度
 (平成27年5月31日)

負債の部	
流動負債	
責任準備金	3 1,018,783
未払法人税等	564,538
未払金	27,016
未払費用	20,142
預り金	5,048
流動負債合計	1,635,528
固定負債	
受託事業基金	51,050,103
役員退職慰労引当金	79,276
退職給付に係る負債	3,354
繰延税金負債	724,496
固定負債合計	51,857,230
負債合計	53,492,758
純資産の部	
株主資本	
資本金	3,980,000
資本剰余金	3,014,509
利益剰余金	26,644,761
株主資本合計	33,639,270
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	1,600,621
その他の包括利益累計額合計	1,600,621
純資産合計	35,239,892
負債純資産合計	88,732,651

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	当連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)
営業収入	
収入手数料	2,131,546
責任準備金戻入	981,109
責任準備金繰入	1,007,485
営業収入合計	2,105,171
営業費用	980,458
営業利益	1,124,712
営業外収益	
受取利息	11,965
受取配当金	753,320
有価証券利息	356,082
複合金融商品償還益	528,320
雑収入	6,843
営業外収益合計	1,656,531
経常利益	2,781,244
特別利益	
責任準備金戻入	420,316
有価証券売却益	1,163,141
特別利益合計	1,583,457
特別損失	
責任準備金繰入	11,298
投資有価証券評価損	1,207
特別損失合計	12,506
税金等調整前当期純利益	4,352,196
法人税、住民税及び事業税	1,480,393
法人税等調整額	13,880
法人税等合計	1,494,273
少数株主損益調整前当期純利益	2,857,922
少数株主利益	-
当期純利益	2,857,922

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	当連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	2,857,922
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	1,066,993
その他の包括利益合計	1,066,993
包括利益	3,924,915
(内訳)	
親会社株主に係る包括利益	3,924,915
少数株主に係る包括利益	-

【連結株主資本等変動計算書】

当連結会計年度（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	3,980,000	3,014,509	23,983,639	30,978,148
当期変動額				
剰余金の配当			196,800	196,800
当期純利益			2,857,922	2,857,922
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）				
当期変動額合計	-	-	2,661,122	2,661,122
当期末残高	3,980,000	3,014,509	26,644,761	33,639,270

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価 証券評価差 額金	その他の包 括利益累計 額合計	
当期首残高	533,628	533,628	31,511,776
当期変動額			
剰余金の配当			196,800
当期純利益			2,857,922
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	1,066,993	1,066,993	1,066,993
当期変動額合計	1,066,993	1,066,993	3,728,115
当期末残高	1,600,621	1,600,621	35,239,892

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	当連結会計年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
営業収入	2,158,055
人件費の支出	331,945
その他の営業支出	667,738
小計	1,158,371
利息及び配当金の受取額	1,345,849
受託事業基金受入	3,362,953
受託事業基金返還	755,179
法人税等の支払額	1,853,356
その他	6,843
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,265,480
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	600,000
定期預金の払戻による収入	600,000
有価証券の取得による支出	55,999,781
有価証券の償還による収入	78,300,000
有価証券の売却による収入	3,000,960
有形固定資産の取得による支出	1,921,238
無形固定資産の取得による支出	838
投資有価証券の取得による支出	68,595,463
投資有価証券の償還による収入	2,900,000
投資有価証券の売却による収入	24,502,488
投資活動によるキャッシュ・フロー	17,813,874
財務活動によるキャッシュ・フロー	
配当金の支払額	196,800
財務活動によるキャッシュ・フロー	196,800
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	14,745,193
現金及び現金同等物の期首残高	21,989,241
現金及び現金同等物の期末残高	7,244,047

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数及び連結子会社の名称

連結子会社の数 1社

連結子会社の名称

Mutual Service Aid Guarantee Insurance Corporation

Mutual Service Aid Guarantee Insurance Corporationは、当連結会計年度において新たに連結したため、連結の範囲に含めております。

2. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

3. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券 時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

定率法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 8～18年

什器備品 5～20年

無形固定資産

ソフトウェア(自社利用分)については、社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給見積額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

従業員の退職給付に備えるため、内規に基づく自己都合退職による期末要支給見積額から中小企業退職金共済制度からの給付相当額を控除した金額を計上しております。また、執行役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給見積額を引当計上しております。

(5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3カ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税込方式によっております。

責任準備金

割賦販売法第35条の10に基づき、未経過収入手数料と営業収支差額のいずれが多い方の金額を責任準備金として計上しております。

なお、同条第2号により算出した金額(年間営業収支差額)が同条第1号により算出した金額(未経過収入手数料)を超過する金額に相当する責任準備金の繰入額、戻入額については特別損益に計上することとしております。

(連結貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

当連結会計年度末現在、該当する債務はありませんが、担保に供している資産は以下のとおりです。

当連結会計年度 (平成27年5月31日)	
有価証券	690,000千円
長期預金	2,000,000千円
投資有価証券	12,600,000千円
計	15,290,000千円

2. 期末受託契約残高(互助会に代って法務局に供託することを保証している残高)

当連結会計年度 (平成27年5月31日)	
期末代位供託保証残高(互助会に代って 法務局に供託することを保証している残高)	743,299,672千円
計	743,299,672千円

3 責任準備金

供託委託契約による収入手数料の未経過額(前受収益)

当連結会計年度 (平成27年5月31日)	
供託委託契約による収入手数料の未経過額 (前受収益)	1,007,485千円
計	1,007,485千円

(連結損益計算書関係)

営業費用のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

当連結会計年度 (自平成26年6月1日 至平成27年5月31日)	
給料及び手当	148,694千円
保険料	183,103
役員退職慰労引当金繰入額	19,616
退職給付費用	5,382

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

当連結会計年度 (自平成26年6月1日 至平成27年5月31日)	
その他有価証券評価差額金	
当期発生額	2,697,089千円
組替調整額	1,161,933
税効果調整前	1,535,155
税効果額	468,162
その他有価証券評価差額金	1,066,993
その他の包括利益合計	1,066,993

(連結株主資本等変動計算書関係)

当連結会計年度(自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	増加	減少	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	96,000	-	-	96,000
第1種優先株式	60,000	-	-	60,000
合計	156,000	-	-	156,000

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年8月28日 定時株主総会 及び普通株主に よる種類株主総会	普通株式	76,800 (普通配当38,400) (特別配当38,400)	800 (普通配当 400) (特別配当 400)	平成26年5月31日	平成26年8月28日
	第一種優先株式	120,000 (普通配当60,000) (特別配当60,000)	2,000 (普通配当1,000) (特別配当1,000)	平成26年5月31日	平成26年8月28日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の 原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年8月28日 定時株主総会 及び普通株主に よる種類株主総会	普通株式	繰越利益 剰余金	76,800 (普通配当38,400) (特別配当38,400)	800 (普通配当 400) (特別配当 400)	平成27年5月31日	平成27年8月28日
	第一種優先 株式	繰越利益 剰余金	120,000 (普通配当60,000) (特別配当60,000)	2,000 (普通配当1,000) (特別配当1,000)	平成27年5月31日	平成27年8月28日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	当連結会計年度 (自 平成26年 6月 1日 至 平成27年 5月31日)
現金及び預金勘定	4,832,139千円
有価証券勘定の内 FFF	3,011,908
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	600,000
現金及び現金同等物	7,244,047

2. 新規設立により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

新たに設立したMutual Service Aid Guarantee Insurance Corporationを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳は次のとおりであります。

流動資産	1,031,300千円
固定資産	- 〃
資産合計	1,031,300千円
流動負債	- 千円
固定負債	- 〃
負債合計	- 千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、「安全性」と「流動性」を重視した資産運用方針に基づき、国債、地方債、政府機関債及び不動産投資信託等の金融資産で運用しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

有価証券及び投資有価証券は、株式市場の低迷や市場金利の上昇、為替動向等により、保有債券の評価損の発生や含み損益の悪化のリスクがあります。このため、当社グループ内に「資産運用委員会」を設置し、四半期毎に、資産の運用方針の審議及び資産の運用状況について確認を行うなど、リスク管理体制を整備して運営しております。

当社グループは、その保有金融資産を分別管理しております。具体的には、「受託事業基金口」と「自己資金口」とに分別し、前者は全て元本が保証されている「その他有価証券」で運用しております。後者は、「その他有価証券」で運用しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価格のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価格が含まれております。当該価格の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価格が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

当連結会計年度（平成27年5月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	4,832,139	4,832,139	-
(2) 有価証券及び投資有価証券			
其他有価証券	74,679,156	74,679,156	-
(3) 長期預金	2,000,000	2,043,887	43,887
資産計	81,511,295	81,555,183	43,887

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金

預金はすべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 有価証券及び投資有価証券

株式及び不動産投資信託は取引所の価格、債券は日本証券業協会公表の公社債店頭売買参考統計値等又は取引金融機関から提示された価格によっております。また、公社債投資信託受益証券(FFF)は、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期預金

長期預金の時価については、元利金の合計額を、新規に同様の預入を行った場合に想定される利率で割引いた現在価値により算定しております。

（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金銭債務の連結貸借対照表計上額

（単位：千円）

区分	当連結会計年度 (平成27年5月31日)
受託事業基金	51,050,103

市場価格がなく、かつ、将来のキャッシュ・フローを見積もること等ができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、時価開示の対象としておりません。

（注3）金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

当連結会計年度（平成27年5月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	4,832,139	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
其他有価証券のうち満期があるもの	15,190,000	4,900,000	5,000,000	-
長期預金	-	-	2,000,000	-
合計	20,022,139	4,900,000	7,000,000	-

(有価証券関係)

1. その他有価証券

当連結会計年度(平成27年5月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	3,775,200	2,946,723	828,477
	(2) 債券	20,793,275	20,597,781	195,494
	(3) その他	41,795,639	40,435,595	1,360,044
	小計	66,364,115	63,980,099	2,384,015
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	12,023	14,559	2,535
	(2) 債券	4,506,471	4,508,515	2,043
	(3) その他	784,637	799,787	15,150
	小計	5,303,132	5,322,862	19,729
合計		71,667,247	69,302,961	2,364,286

2. 売却したその他有価証券

当連結会計年度(自平成26年6月1日至平成27年5月31日)

売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
32,450,696	1,197,179	34,038

3. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、投資有価証券について1,207千円(その他有価証券の株式1,207千円)減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合にはすべて減損処理を行い、30%~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(退職給付関係)

当連結会計年度(自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は退職金規程に基づく退職一時金制度を採用し、退職一時金の一部を中小企業退職金共済制度から支給する制度であります。退職給付債務の算定については、期末自己都合要支給額を退職給付債務とする簡便法によっております。

2. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高	7,174千円
退職給付費用	2,070千円
退職給付の支払額	5,891千円
退職給付に係る負債の期末残高	3,354千円

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

非積立型制度の退職給付債務	23,934千円
中小企業退職金共済制度による支給見込額	20,580千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	3,354千円
退職給付に係る負債	3,354千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	3,354千円

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	2,070千円
----------------	---------

3. 確定拠出制度

当社の中小企業退職金制度への要拠出額は、3,312千円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	当連結会計年度 (平成27年5月31日)
繰延税金資産(流動)	
未払事業税	47,673千円
計	47,673
繰延税金負債(流動)	
その他有価証券評価差額金	12,264
計	12,264
繰延税金資産(固定)	
一括償却資産	0
退職給付に係る負債	1,085
役員退職慰労引当金	25,606
計	26,903
繰延税金負債(固定)	
その他有価証券評価差額金	751,400
計	751,400
繰延税金負債の純額	689,086

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

当連結会計年度において、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第2号)が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債を計算する法定実効税率は従来の35.64%から、平成27年6月1日に開始する連結会計年度に解消すると見込まれる一時差異等については33.06%に、平成28年6月1日に開始する連結会計年度以降に解消すると見込まれる一時差異等については、32.30%になっています。

その結果、繰延税金負債の金額(繰延税金資産の金額を控除した金額)が72,471千円減少し、当連結会計年度に計上された法人税等調整額(借方)が6,495千円、その他有価証券評価差額金(貸方)が78,967千円それぞれ増加しております。

(資産除去債務関係)

当連結会計年度(平成27年5月31日)

当社グループは、本社オフィスの不動産賃借契約に基づき、オフィスの退去時における原状回復に係る債務を有しているが当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、具体的な移転計画も決定していないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができません。そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、事業の種類に基づき「保証事業」及び「再保証事業」を2つの報告セグメントをしております。

各セグメントの概要は以下のとおりであります。

保証事業...割賦販売法による互助会の前受金の保証事業を行っております。

再保険事業...国内損害保険会社からの再保険の引受業務を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載事項と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

当連結会計年度(自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)

	報告セグメント		合計
	保証事業	再保険事業	
売上高			
外部顧客への売上高	2,105,171	-	2,105,171
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	648,251	648,251
計	2,105,171	648,251	2,753,423
セグメント利益	692,155	432,557	1,124,712
セグメント資産	88,299,963	1,785,457	90,085,420
その他の項目			
減価償却費	22,193	-	22,193
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	1,924,655	-	1,924,655

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

売上高	当連結会計年度
報告セグメント計	2,753,423
セグメント間取引消去	648,251
連結財務諸表の売上高	2,105,171

(単位：千円)

資産	当連結会計年度
報告セグメント計	90,085,420
セグメント間取引消去	1,352,768
連結財務諸表の資産合計	88,732,651

【関連情報】

当連結会計年度（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3．主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載事項はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当連結会計年度（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当連結会計年度（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

当連結会計年度（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

当連結会計年度（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（百万円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（百万円）	科目	期末残高（百万円）
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等	(株)日本セレモニー 神田 忠	山口県 下関市	100	冠婚葬祭互助会	(被所有) 直接 1.07	前受業務保証金供託委託契約 役員の兼任	前受業務保証金供託委託契約	20,537	受託事業基金	1,358
							受託手数料の受入	58	-	-
	(株)防長互助センター 神田 忠	山口県 別府市	20	冠婚葬祭互助会	(被所有) 直接 0.02	前受業務保証金供託委託契約 役員の兼任	前受業務保証金供託委託契約	211	受託事業基金	15
							受託手数料の受入	0	-	-
	(株)日本セレモニー(広島) 神田 忠	広島県 福山市	30	冠婚葬祭互助会	(被所有) 直接 0.20	前受業務保証金供託委託契約 役員の兼任	前受業務保証金供託委託契約	4,360	受託事業基金	288
							受託手数料の受入	13	-	-
	(株)サンファミリー 神田 忠	岩手県 盛岡市	50	冠婚葬祭互助会	(被所有) -	受業務保証金供託委託契約 役員の兼任	前受業務保証金供託委託契約	3,123	受託事業基金	176
							受託手数料の受入	4	-	-
	(株)へいあん 秋田 神田 忠	秋田県 秋田市	50	冠婚葬祭互助会	(被所有) 直接 0.01	前受業務保証金供託委託契約 役員の兼任	前受業務保証金供託委託契約	6,373	受託事業基金	424
							受託手数料の受入	6	-	-
	(株)へいあんファミリー 神田 忠	山口県 岩国市	20	冠婚葬祭互助会	(被所有) -	前受業務保証金供託委託契約 役員の兼任	前受業務保証金供託委託契約	1,563	受託事業基金	104
							受託手数料の受入	4	-	-
	(株)ラック 柴山 文夫	福岡市 博多区	66	冠婚葬祭互助会	(被所有) 直接 1.73	前受業務保証金供託委託契約 役員の兼任	前受業務保証金供託委託契約	6,322	受託事業基金	402
							受託手数料の受入	18	-	-
	(株)117 山下 裕史	兵庫県 姫路市	50	冠婚葬祭互助会	(被所有) 直接 1.32	前受業務保証金供託委託契約 役員の兼任	前受業務保証金供託委託契約	16,200	受託事業基金	1,062
							受託手数料の受入	48	-	-
	(株)メモリード(長崎) 吉田 茂視	長崎県 長崎市	400	冠婚葬祭互助会	(被所有) 直接 1.08	前受業務保証金供託委託契約 役員の兼任	前受業務保証金供託委託契約	11,873	受託事業基金	781
							受託手数料の受入	35	-	-
(株)メモリード(北関東) 吉田 茂視	群馬県 前橋市	715	冠婚葬祭互助会	(被所有) 直接 0.95	前受業務保証金供託委託契約 役員の兼任	前受業務保証金供託委託契約	6,853	受託事業基金	447	
						受託手数料の受入	20	-	-	

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所 有(被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及び その近親 者が議決 権の過半 数を所有 している 会社等	(株)セレモニー 宮崎 吉田 茂視	宮崎県 宮崎市	600	冠婚葬祭互 助会	(被所有) -	前受業務保 証金供託委 託契約 役員の兼任	前受業務保 証金供託委 託契約	5,932	受託事 業基金	396
							受託手数料 の受入	17	-	-
	(株)ライムメン バーズ 吉田 茂視	群馬県 前橋石	25	冠婚葬祭互 助会	(被所有) 直接 0.02	前受業務保 証金供託委 託契約 役員の兼任	前受業務保 証金供託委 託契約	1,269	受託事 業基金	84
							受託手数料 の受入	1	-	-
	(株)メモリード 東京 吉田 茂視	群馬県 前橋市	100	冠婚葬祭互 助会	(被所有) 直接 0.22	前受業務保 証金供託委 託契約 役員の兼任	前受業務保 証金供託委 託契約	2,563	受託事 業基金	225
							受託手数料 の受入	7	-	-
	(株)ルクル 吉田 茂視	佐賀県 佐賀市	125	冠婚葬祭互 助会	(被所有) 直接 0.16	前受業務保 証金供託委 託契約 役員の兼任	前受業務保 証金供託委 託契約	163	受託事 業基金	13
							受託手数料 の受入	0	-	-
	(株)メモワール 渡邊 貢	横浜市 南区	50	冠婚葬祭互 助会	(被所有) 直接 0.57	前受業務保 証金供託委 託契約 役員の兼任	前受業務保 証金供託委 託契約	5,451	受託事 業基金	355
							受託手数料 の受入	16	-	-
	(株)アルス 渡邊 貢	山梨県富 士吉田市	50	冠婚葬祭互 助会	(被所有) -	前受業務保 証金供託委 託契約 役員の兼任	前受業務保 証金供託委 託契約	1,995	受託事 業基金	133
							受託手数料 の受入	5	-	-
	(株)東日本セ レモニー 渡邊 貢	横浜市 南区	70	冠婚葬祭互 助会	(被所有) 直接 0.07	前受業務保 証金供託委 託契約 役員の兼任	前受業務保 証金供託委 託契約	6,107	受託事 業基金	417
							受託手数料 の受入	6	-	-
	(株)あいネット 杉山 雄吉郎	静岡市 駿河区	20	冠婚葬祭互 助会	(被所有) 直接 0.76	前受業務保 証金供託委 託契約 役員の兼任	前受業務保 証金供託委 託契約	6,827	受託事 業基金	447
							受託手数料 の受入	20	-	-
	(株)あいネット 清水 杉山 雄吉郎	静岡市 清水区	20	冠婚葬祭互 助会	(被所有) -	前受業務保 証金供託委 託契約 役員の兼任	前受業務保 証金供託委 託契約	3,887	受託事 業基金	259
							受託手数料 の受入	11	-	-
(株)あいネット 伊勢 杉山 雄吉郎	三重県 伊勢市	20	冠婚葬祭互 助会	(被所有) -	前受業務保 証金供託委 託契約 役員の兼任	前受業務保 証金供託委 託契約	587	受託事 業基金	39	
						受託手数料 の受入	1	-	-	
(株)平安閣互 助会 杉山 雄吉郎	静岡県 藤枝市	20	冠婚葬祭互 助会	(被所有) 直接 0.73	前受業務保 証金供託委 託契約 役員の兼任	前受業務保 証金供託委 託契約	3,129	受託事 業基金	203	
						受託手数料 の受入	9	-	-	

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所 有(被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及び その近親 者が議決 権の過半 数を所有 している 会社等	(株)平安(長野) 杉山 雄吉郎	長野県 飯田市	93	冠婚葬祭互 助会	(被所有) 直接 0.18	前受業務保 証金供託委 託契約 役員の兼任	前受業務保 証金供託委 託契約	1,476	受託事 業基金	100
							受託手数料 の受入	1	-	-
	(株)セルモ 安田 征史	熊本県 熊本市	100	冠婚葬祭互 助会	(被所有) 直接 0.26	前受業務保 証金供託委 託契約 役員の兼任	前受業務保 証金供託委 託契約	10,692	受託事 業基金	710
							受託手数料 の受入	32	-	-
	(株)サンセルモ 安田 征史	東京都 港区	100	冠婚葬祭互 助会	(被所有) 直接 -	前受業務保 証金供託委 託契約 役員の兼任	前受業務保 証金供託委 託契約	13,850	受託事 業基金	923
							受託手数料 の受入	41	-	-
	(株)サンレー (北陸) 佐久間 庸和	石川県 金沢市	50	冠婚葬祭互 助会	(被所有) 直接 -	前受業務保 証金供託委 託契約 役員の兼任	前受業務保 証金供託委 託契約	6,918	受託事 業基金	461
							受託手数料 の受入	20	-	-
	(株)サンレー (北九州) 佐久間 庸和	福岡県 北九州市	100	冠婚葬祭互 助会	(被所有) 直接 2.07	前受業務保 証金供託委 託契約 役員の兼任	前受業務保 証金供託委 託契約	11,965	受託事 業基金	775
							受託手数料 の受入	35	-	-
	(株)サンレー (沖縄) 佐久間 庸和	沖縄県 那覇市	50	冠婚葬祭互 助会	(被所有) 直接 -	前受業務保 証金供託委 託契約 役員の兼任	前受業務保 証金供託委 託契約	11,008	受託事 業基金	733
							受託手数料 の受入	32	-	-
	(株)アーケベル 北村 芳明	新潟県 新潟市	60	冠婚葬祭互 助会	(被所有) 直接 2.33	前受業務保 証金供託委 託契約 役員の兼任	前受業務保 証金供託委 託契約	19,233	受託事 業基金	1,259
							受託手数料 の受入	57	-	-

取引条件及び取引条件の決定方針

(注) 前受業務保証金供託委託契約は、割賦販売法第35条の3の62において準用する同法第18条の3の規定に基づき、当社との契約互助会(前払式特定取引業者)が、毎年3月31日及び9月30日における前受金残高の二分の一に相当する額の保全措置として行うものです。

取引条件は、信用格付を厳格に行った上で、審査規定に基づいて決定しており、社長決裁を受けています。
 なお、当該契約において、定期預金・有価証券・不動産等の担保の受入を行っております。

(1 株当たり情報)

	当連結会計年度 (自 平成26年 6 月 1 日 至 平成27年 5 月31日)
1 株当たり純資産額	304,582円
1 株当たり当期純利益金額	28,520円

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
 2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当連結会計年度 (平成27年 5 月31日)
純資産の部の合計額(千円)	35,239,892
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	6,000,000
(うち優先株式払込金額(千円))	(6,000,000)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	29,239,892
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	96,000

3. 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当連結会計年度 (自 平成26年 6 月 1 日 至 平成27年 5 月31日)
1株当たり当期純利益金額	
当期純利益金額(千円)	2,857,922
普通株主に帰属しない金額(千円)	120,000
普通株式に係る当期純利益金額(千円)	2,737,922
期中平均株式数(株)	96,000

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年5月31日)	当事業年度 (平成27年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,182,863	3,117,491
有価証券	55,740,348	18,240,499
未収入金	39,760	4,960,499
未収収益	252,652	54,994
前払費用	6,911	338,322
繰延税金資産	61,889	35,409
その他	1,001	990
流動資産合計	58,285,425	26,748,207
固定資産		
有形固定資産		
建物	657	570
什器備品	5,861	9,762
土地	-	1,914,208
建設仮勘定	-	907
有形固定資産合計	6,519	1,925,449
無形固定資産		
ソフトウェア	80,328	63,859
電話加入権	456	456
無形固定資産合計	80,784	64,316
投資その他の資産		
投資有価証券	1 22,190,142	1 56,438,656
関係会社株式	-	1,031,300
長期預金	1 2,000,000	1 2,000,000
長期差入保証金	90,182	90,182
長期前払費用	2,008	1,850
投資その他の資産合計	24,282,333	59,561,990
固定資産合計	24,369,637	61,551,755
資産合計	82,655,062	88,299,963

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年5月31日)	当事業年度 (平成27年5月31日)
負債の部		
流動負債		
未払費用	19,080	20,142
未払法人税等	903,063	475,813
預り金	5,845	5,048
責任準備金	3 1,401,426	3 1,007,485
その他	35,205	27,016
流動負債合計	2,364,621	1,535,505
固定負債		
受託事業基金	48,442,329	51,050,103
役員退職慰労引当金	60,226	79,276
退職給付引当金	7,174	3,354
繰延税金負債	268,933	724,496
固定負債合計	48,778,663	51,857,230
負債合計	51,143,285	53,392,735
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,980,000	3,980,000
資本剰余金		
資本準備金	3,014,509	3,014,509
資本剰余金合計	3,014,509	3,014,509
利益剰余金		
利益準備金	122,880	122,880
その他利益剰余金		
受託事業基金積立金	21,288,400	23,638,400
繰越利益剰余金	2,572,359	2,550,817
利益剰余金合計	23,983,639	26,312,097
株主資本合計	30,978,148	33,306,606
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	533,628	1,600,621
評価・換算差額等合計	533,628	1,600,621
純資産合計	31,511,776	34,907,227
負債純資産合計	82,655,062	88,299,963

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成25年6月1日 至 平成26年5月31日)	当事業年度 (自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日)
営業収入		
収入手数料	2,051,291	2,131,546
責任準備金戻入	932,280	981,109
責任準備金繰入	981,109	1,007,485
営業収入合計	2,002,462	2,105,171
営業費用	1,268,546	1,214,130
営業利益	1,316,997	692,155
営業外収益		
受取利息	11,065	11,811
有価証券利息	670,872	356,082
受取配当金	172,227	753,320
複合金融商品評価益	60,195	-
複合金融商品償還益	27,990	528,320
雑収入	3,915	6,843
営業外収益合計	946,266	1,656,377
営業外費用		
為替差損	1	-
営業外費用合計	1	-
経常利益	2,263,262	2,348,532
特別利益		
責任準備金戻入	480,256	420,316
有価証券売却益	1,824,002	1,163,141
特別利益合計	2,304,259	1,583,457
特別損失		
責任準備金繰入	420,316	-
固定資産除却損	128	-
投資有価証券評価損	-	1,207
特別損失合計	420,444	1,207
税引前当期純利益	4,147,076	3,930,782
法人税、住民税及び事業税	1,585,072	1,391,644
法人税等調整額	11,554	13,880
法人税等合計	1,596,627	1,405,525
当期純利益	2,550,449	2,525,257

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成25年6月1日 至 平成26年5月31日）

(単位：千円)

	株主資本							株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計	
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金			
					受託事業基金積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	3,980,000	3,014,509	3,014,509	122,880	19,238,400	2,268,710	21,629,990	28,624,499
当期変動額								
剰余金の配当						196,800	196,800	196,800
受託事業基金の積立					2,050,000	2,050,000	-	-
当期純利益						2,550,449	2,550,449	2,550,449
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	2,050,000	303,649	2,353,649	2,353,649
当期末残高	3,980,000	3,014,509	3,014,509	122,880	21,288,400	2,572,359	23,983,639	30,978,148

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	32,527	32,527	28,657,026
当期変動額			
剰余金の配当			196,800
受託事業基金の積立			-
当期純利益			2,550,449
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	501,100	501,100	501,100
当期変動額合計	501,100	501,100	2,854,749
当期末残高	533,628	533,628	31,511,776

当事業年度（自 平成26年6月1日 至 平成27年5月31日）

(単位：千円)

	株主資本							株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計	
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金			
					受託事業基金積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	3,980,000	3,014,509	3,014,509	122,880	21,288,400	2,572,359	23,983,639	30,978,148
当期変動額								
剰余金の配当						196,800	196,800	196,800
受託事業基金の積立					2,350,000	2,350,000	-	-
当期純利益						2,525,257	2,525,257	2,525,257
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	2,350,000	21,542	2,328,457	2,328,457
当期末残高	3,980,000	3,014,509	3,014,509	122,880	23,638,400	2,550,817	26,312,097	33,306,606

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	533,628	533,628	31,511,776
当期変動額			
剰余金の配当			196,800
受託事業基金の積立			-
当期純利益			2,525,257
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	1,066,993	1,066,993	1,066,993
当期変動額合計	1,066,993	1,066,993	3,395,450
当期末残高	1,600,621	1,600,621	34,907,227

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券(投資有価証券を含む)の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)を採用しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 8年～18年

什器備品 5年～20年

(2) 無形固定資産

ソフトウェア(自社利用分)については、社内における見込利用可能期間(5年)による定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給見積額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、内規に基づく自己都合退職による期末要支給見積額から中小企業退職金共済制度からの給付相当額を控除した金額を計上しております。また、執行役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給見積額を引当計上しております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税込方式によっております。

(2) 責任準備金

割賦販売法第35条の10に基づき、未経過収入手数料と営業収支差額のいずれが多い方の金額を責任準備金として計上しております。

なお、同条第2号により算出した金額(年間営業収支差額)が同条第1号により算出した金額(未経過収入手数料)を超過する金額に相当する責任準備金の繰入額、戻入額については特別損益に計上することとしております。

(表示方法の変更)

以下の事項について、記載を省略しております。

- ・財務諸表等規則第8条の28に定める資産除去債務に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第68条の4に定める1株当たり純資産額の注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の2に定める1株当たり当期純損益金額に関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。

従来、「流動資産」の「その他」に含まれておりました「前払費用」は、金額的重要性が増したため、当年度より区分掲記しております。この表示方法を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組み替えを行っております。

(貸借対照表関係)

1. 担保に供している資産及び担保に係る債務

当期末現在該当する債務はありませんが、担保に供している資産は以下のとおりであります。

	前事業年度 (平成26年5月31日)	当事業年度 (平成27年5月31日)
有価証券	- 千円	690,000千円
長期預金	2,000,000千円	2,000,000千円
投資有価証券	2,500,000千円	12,600,000千円
計	4,500,000千円	15,290,000千円

2. 期末代位供託保証残高(互助会に代って法務局に供託することを保証している残高)

	前事業年度 (平成26年5月31日)	当事業年度 (平成27年5月31日)
期末代位供託保証残高(互助会に代って 法務局に供託することを保証している残高)	723,319,027千円	743,299,672千円
計	723,319,027千円	743,299,672千円

3. 供託委託契約による収入手数料の未経過額(前受収益)

	前事業年度 (平成26年5月31日)	当事業年度 (平成27年5月31日)
供託委託契約による収入手数料の未経過額 (前受収益)	981,109千円	1,007,485千円
計	981,109千円	1,007,485千円

(損益計算書関係)

1. 営業費用のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成25年6月1日 至平成26年5月31日)	当事業年度 (自平成26年6月1日 至平成27年5月31日)
給料及び手当	154,011千円	148,694千円
役員退職慰労引当金繰入額	20,754千円	19,616千円
退職給付引当金繰入額	1,924千円	2,070千円
保険料	27,201千円	693,227千円
減価償却費	11,699千円	22,193千円

2. 関係会社との取引高

	前事業年度 (自平成25年6月1日 至平成26年5月31日)	当事業年度 (自平成26年6月1日 至平成27年5月31日)
営業費用	-	648,251千円

(有価証券関係)

子会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の貸借対照表計上額は以下のとおりです。

(単位:千円)

区分	平成26年 5月31日	平成27年 5月31日
子会社株式	-	1,031,300

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成26年 5月31日)	当事業年度 (平成27年 5月31日)
(繰延税金資産)		
役員退職慰労引当金	21,464 千円	25,606 千円
未払事業税	63,848	47,673
その他	3,144	1,297
繰延税金資産合計	88,458	74,577
(繰延税金負債)		
投資有価証券評価差額金	295,502	763,664
繰延税金負債合計	295,502	763,664
繰延税金負債の純額	207,044	689,086

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

前事業年度及び当事業年度において、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3. 法人税等の税率変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第2号)が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等の引下げ等が行われることになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債を計算する法定実効税率は従来の35.64%から、平成27年6月1日に開始する事業年度に解消すると見込まれる一時差異等については33.06%に、平成28年6月1日に開始する事業年度以降に解消すると見込まれる一時差異等については、32.30%になっております。

この結果、繰延税金負債の金額(繰延税金資産の金額を控除した金額)が、72,471千円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額(借方)が6,495千円、その他有価証券評価差額金(貸方)が78,967千円それぞれ増加しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価証券	その他有価証券	(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	1,117,770	1,029,689
		(株)三井住友フィナンシャルグループ	151,030	856,340
		(株)みずほフィナンシャルグループ	3,301,770	906,666
		(株)りそなホールディングス	805,400	574,089
		三井住友トラスト・ホールディングス(株)	630,000	359,037
		(株)ノバレーゼ	7,600	6,938
		(株)エスクリ	2,400	2,721
		アイ・ケイ・ケイ(株)	8,800	5,623
		平安レイサービス(株)	13,400	9,902
		(株)ツカダ・グローバルホールディング	4,500	3,600
		(株)ティア	6,400	4,096
		(株)テイクアンドギヴ・ニーズ	1,000	785
		(株)サン・ライフ	10,000	9,840
		ワタベウエディング(株)	6,800	3,284
		こころネット(株)	2,700	2,538
		燦ホールディングス(株)	3,700	6,656
		(株)スタジオアリス	1,300	2,925
		(株)はせがわ	4,700	2,491
		計	6,079,270	3,787,223

【債券】

		銘柄	券面総額(千円)	貸借対照表計上額 (千円)
有価証券	その他有 価証券	利付国庫債券	6,900,000	6,905,310
		横浜市公債	600,000	601,888
		東京都公債	600,000	603,320
		共同発行地方債	200,000	202,260
		みずほ証券短期社債	3,000,000	2,999,609
		優先出資リパ債	500,000	499,150
		日立製作所社債	400,000	401,280
		関西電力社債	400,000	401,440
		中部電力社債	100,000	102,040
		東京電力社債	500,000	501,091
		東日本旅客鉄道社債	100,000	100,450
		東北電力社債	400,000	401,640
		九州電力社債	200,000	201,300
		みずほ信託銀行劣後債	300,000	302,820
		日本高速道路機構債	200,000	201,920
		鉄道建設・道路債	290,000	293,871
		住友信託銀行劣後債	500,000	509,200
			小計	15,190,000

銘柄		券面総額(千円)	貸借対照表計上額 (千円)	
投資有価証券	その他 有価証券	東京都公債	400,000	408,940
		私立学校振興債	200,000	205,000
		三菱東京UFJ銀行劣後債	600,000	617,700
		東海旅客鉄道社債	500,000	515,060
		東日本旅客鉄道社債	200,000	206,480
		九州電力社債	400,000	411,180
		関西電力社債	500,000	513,250
		中部電力社債	400,000	409,200
		東北電力社債	200,000	204,580
		三井住友銀行劣後債	700,000	722,820
		大阪瓦斯社債	200,000	211,960
		みずほ銀行劣後債	300,000	309,030
		住友信託銀行劣後債	300,000	309,870
		三菱UFJFG社債	500,000	508,000
		みずほFG劣後債	4,000,000	4,016,767
		三井住友FG劣後債	300,000	301,140
		三井住友FG社債	200,000	200,178
		小計		9,900,000
計		25,090,000	25,299,746	

【その他】

種類及び銘柄		投資口数等	貸借対照表計上額 (千円)
有価証券	その他の 有価証券	公社債投資信託受益証券(F F F)	3,011,908
		計	3,011,908

種類及び銘柄		取得価額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価証券	その他の 有価証券	りそな モデルV a l u e	1,000,000
		外債コア・ファンド	3,000,000
		単独運用指定金銭信託	10,600,000
		P I M C O グローバル債券	3,000,000
		世界株式インデックス・ファンド	2,000,000
		グローバル総合債券	1,000,000
		P I M C O 日本クレジット・ファンド	5,000,000
		D R C 日本株アクティブ私募ファンド	3,000,000
		米国年限別国債私募債	3,000,000
		D R C 外国株アクティブ私募ファンド	3,000,000
		計	34,600,000

種類及び銘柄		投資口数等	貸借対照表計上額 (千円)	
投資有価証券	その他の有価証券	M I Dリート投資法人	1,325	490,250
		野村不動産レジデンシャル投資法人	581	408,443
		アドバンス・レジデンス投資法人	848	254,230
		野村不動産マスターファンド投資法人	2,615	417,092
		ヒューリックリート投資法人	1,476	266,122
		日本ビルファンド投資法人	932	541,492
		ジャパンリアルエステイト投資法人	914	522,808
		日本リテールファンド投資法人	1,410	351,654
		オリックス不動産投資法人	2,354	416,187
		プレミア投資法人	730	496,400
		東急リアル・エステート投資法人	1,014	164,369
		野村不動産オフィスファンド投資法人	750	426,000
		フロンティア不動産投資法人	943	555,427
		日本ロジスティクスファンド投資法人	672	171,696
		積水ハウス・S I レジデンシャル投資法人	3,052	405,000
		トップリート投資法人	809	422,298
		大和ハウス・レジデンシャル投資法人	1,418	395,905
		ジャパンエクセレント投資法人	2,476	388,732
計	24,319	7,094,108		

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	657	-	-	86	570	8,982
	什器備品	5,861	5,519	-	1,618	9,762	16,916
	土地	-	1,914,208	-	-	1,914,208	-
	建設仮勘定	-	907	-	-	907	-
	計	6,519	1,920,635	-	1,705	1,925,449	25,898
無形固定資産	ソフトウェア	80,328	4,020	-	20,488	63,859	-
	電話加入権	456	-	-	-	456	-
	計	80,784	4,020	-	20,488	64,316	-

(注) 土地の当期増加額は、新社屋建設用地1,914,208千円の取得であります。

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
役員退職慰労引当金	60,226	19,616	566	79,276

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	6月1日から5月31日まで
定時株主総会	8月中
基準日	5月31日
株券の種類	1株券、5株券、10株券、50株券、100株券、500株券
剰余金の配当の基準日	5月31日
1単元の株式数	該当なし
株式の名義書換え	
取扱場所	東京都港区虎ノ門5丁目13番1号(虎ノ門40MTビル) 互助会保証株式会社
株主名簿管理人	なし
取次所	なし
名義書換手数料	なし
新券交付手数料	なし
単元未満株式の買取り	
取扱場所	なし
株主名簿管理人	なし
取次所	なし
買取手数料	なし
公告掲載方法	官報
株主に対する特典	なし
株式の譲渡制限	当社定款により、取締役会の承認がなければ譲渡できないものとする。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、上場会社ではありませんので、金融商品取引法第24条の7第1項の適用がありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度 第42期（自 平成25年6月1日 至 平成26年5月31日）平成26年8月29日関東財務局長に提出。

(2) 半期報告書

事業年度 第43期中（自 平成26年6月1日 至 平成26年11月30日）平成27年2月26日関東財務局長に提出。

(3) 臨時報告書

平成26年8月11日関東財務局長に提出。

金融商取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号の規定に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成27年 8月28日

互助会保証株式会社
取締役会 御中

仰 星 監 査 法 人

代 表 社 員
業 務 執 行 社 員 公 認 会 計 士 山 崎 清 孝 印

業 務 執 行 社 員 公 認 会 計 士 新 島 敏 也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている互助会保証株式会社の平成26年6月1日から平成27年5月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、互助会保証株式会社及び連結子会社の平成27年5月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成27年 8月28日

互助会保証株式会社
取締役会 御中

仰 星 監 査 法 人

代 表 社 員
業務執行社員 公認会計士 山崎 清孝 印

業務執行社員 公認会計士 新島 敏也 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている互助会保証株式会社の平成26年6月1日から平成27年5月31日までの第43期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、互助会保証株式会社の平成27年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
 2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。